

76. 近代中央アジアにおけるジャディード運動の総合的研究

公益財団法人東洋文庫研究部 研究員 小松 久男

概要

本研究が対象とするジャディード運動とは、19世紀末から1920年代にかけてロシア帝国治下、ついでソビエト政権下の中央アジアで展開されたムスリム知識人の改革運動のことをいう。これを担ったジャディード知識人は、教育改革の実践、新聞雑誌の刊行、新文学の創造などにあたり、1917年のロシア革命期には民族的な覚醒と自治運動を先導し、革命の一翼を担った。彼らは、ソビエト期の1920年代にも教育・文化の分野で大きな役割を果たしたが、スターリン時代に「反革命・民族主義者」として粛清の犠牲となり、ジャディード運動に関する研究は長く封印されることになった。その再評価は、ソ連時代の末期から進んでいるが、新独立国家の要請に応えるナショナル・ヒストリーの枠組みに規定されるなどの問題もかかえている。そこで、本研究はウズベキスタン、トルコ、日本の研究者が協同してジャディード運動の総合的な研究をめざす場を構築し、今後の課題を討議するとともに、具体的な研究成果の発表に努めた。本研究の成果はウズベキスタンでも報知されており、研究ネットワークの形成にも寄与している。本研究への支援をいただいた三菱財団には深く感謝を申しあげたい。

背景および目的

本研究の背景と目的としては、おもに次の4点があった。

1. ナショナル・ヒストリーの超克：ジャディード運動の本格的な研究は、ソ連末期から始まり、多くの成果をあげてきたが、1991年にソ連から独立した中央アジア諸国では新独立国家の要請に応えるために、各国ごとのナショナル・ヒストリーの枠組みに規定される傾向が強くなり、その全体像を描くことが難しくなっている。本研究はこれを乗り越えるために、中央アジアのジャディード運動をより広く同時代のロシア・ムスリム地域、オスマン帝国、イラン、インドなどにおける改革・民族運動との連関・比較に重点を置き、ウズベキスタン、トルコ、日本の研究者の協同をめざした。
2. 文学研究と歴史研究の架橋：ウズベキスタンはジャディード運動の研究で豊富な実績を有するが[Abdirashidov 2014]、ソ連以来の学術伝統（現地語資料を扱うのは主に文学研究者）もあり、ジャディード文学の研究が主流を占め、歴史研究はその蓄積が待たれていた。この点でもジャディード運動の全体像を描くことは難しい状況にあるため、本研究では文学研究者（B. Karimov、S. Rizaev、V. Yelok）と歴史研究者（Z. Abdirashidov、B. Somuncuoğlu、小松久男）が協同することにより、両分野の架橋をめざすことにした。
3. 現代的な意義：現代の中央アジア諸国における社会的課題のなかでも、ソ連解体後に復興したイスラームをどのように社会に位置づけるか、また伝統的なトイ（祝宴）に費やされる莫大な経費をいかにして節減するかは、関連して出されてきた大統領令を見ても重大な課題である。また、将来的に想定される中央アジアの地域統合に目を転じれば、現在の民族別の共和国の枠を越えた地域概念トルキスタンの有効性を問うことも必要となる。これらの現代的な課題を最初に提起し、その解決に着手したのがジャディード知識人であった。その意味で彼らの思想は現代の諸課題を考えるにあたっても参照するに値する。
4. 討議の場の設定：ジャディード運動については、2023年12月にウズベキスタンで開催された国際的なシンポジウムのように[Xo'jao'li 2024]、数々の学術集会が開かれてきたが、いずれも限られた時間の個別報告に終始

して、議論を深める機会には恵まれなかった。そこで、本研究のメンバーは、ジャディード運動研究の現状と課題について討議する場を設ける必要を認め、三菱財団の支援を受けて2025年4月16-19日、東洋文庫でワークショップを開催するに至った。

方法

このワークショップをより実りあるものとするために、申請が採択された直後から研究メンバーは、各自のおもな研究成果の交換を開始し、2024年12月にはタシュケントに参集して準備の打ち合わせを行った。なお、このときに合意したことの一つは、2025年はジャディード運動の著名な指導者の一人マフムード・ホジャ・ベフブーディー（1875-1919）の生誕150年にあたることから、東京のワークショップの名称にも「ベフブーディー生誕150周年」と記すことであった。その後、2025年9月にはトルコの首都アンカラで同じく「ベフブーディー生誕150周年」を記念する国際シンポジウムが、協同研究者（Z. Abdirashidov, V. Yelok 教授）らの尽力で開催され、これにはウズベキスタンから55名、トルコから11名、アゼルバイジャンから9名など、合計80名の研究者が参加したという[Yelok, Abdirashidov 2025b]。協同研究者もベフブーディーに関する研究成果を発表している[Abdirashidov 2025b; Karimov 2025a, 2025c]。東京でのワークショップは、記念の年の気運に貢献したともいえる。本ワークショップでは、各自が自由な論題で報告を行ったのち、ジャディード運動研究の現状と課題について討議を行った。このワークショップの概要については、日本語[小松 2025b]とウズベク語[Karimov 2025b; Komatsu 2025]で報告されている。

結果および考察

このワークショップで得られたおもな成果と課題としては、以下の3点をあげることができる。

1. 新聞・雑誌資料の重要性：19世紀末から1917年のロシア革命期にかけてジャディード知識人が刊行した新聞・雑誌は、研究に必須の一次資料であることは言うまでもない。これらはジャディード知識人の教育・社会・言語改革の構想、民族的なアイデンティティの模索、革命期における自治運動の展開などを検討するには不可欠の資料であり、同時に社会・文芸活動の拠点でもあった。さらに社会史の史料としての価値も有している。

ウズベキスタンでは1990年代から、もともとアラビア文字で刊行されていたこれらの新聞・雑誌の現代ウズベク語版が出版され、これをもとに研究が行われてきた。しかし、これら初期のウズベク語版には省略や誤読が少なからず存在しているため、これを原典に照らし合わせて修正する作業が早急に必要である。この点では、現代トルコ語版だが協同研究者による[Yelok, Abdirashidov 2025a]が最新の成果といえる。

ジャディード知識人は、革命後のソビエト期、とくに1920年代においても教育・文化の領域で活動し、その情報は共産党・ソビエト政府の機関紙においても見いだすことができる。ジャディード運動の全体像をとらえるためには、この時期の新聞・雑誌も精査する必要がある。この点では、[小松 2024]が一つの成果といえる。

一方、新聞・雑誌の原本は各国・各地の図書館などに散在したままで統合されておらず、研究に際しての利便性に欠けている。とりわけ次世代の研究者を想定するならば、これらのオリジナル資料のデータベースを構築・公開することが急務の課題である。

2. 地域間の比較と連関：ジャディード運動は中央アジア（トルキスタン）を含むロシア・ムスリム地域における改革運動として始まり、さらに同時代のイスラーム世界における改革の諸潮流とも連動していた。したがって、研究においてもグローバルな視点をもつことが重要であり、これはナショナル・ヒストリーを乗り越えるためにも有効である。さらに、ロシア・ムスリム地域をとってみても、ロシアの1905年革命以前にはクリミア・タタール人の啓蒙思想家イスマイル・ガスプリンスキー（1851-1914）の提唱した教育改革が主流だったが、1905年以降はヴォルガ・ウラル地域、アゼルバイジャン、トルキスタンで地域ごとの特徴が現れると同時に、相互の連関も密なものとなった。ガスプリンスキー自身も政治的な主張を強めるようになった。今後の研究には、こうした視点に立つことが重要となる。ガスプリンスキーの思想と役割に関する最新の研究として[Abdirashidov 2025a, 2025c]をあげることができる。

3. ジャディード文学：近代ウズベク文学の嚆矢としてのジャディード文学の研究にはなお開拓の余地があり、すでに協同研究者の Veli 教授が指摘しているとおり、これを精査すればウズベク文学史の時代区分を見直すことができる[Veli 2025c]。また、いくつかの文学作品には時代状況との密接な関係を見いだすこともできる。さらに、ジャディード知識人が残した旅行記は、彼らが外部世界とどのような関係を結び、世界観を形成したかを検討する上で重要な資料として研究に値することが確認された。旅行記は海外のみならず、中央アジアの各地を対象にしたものも見逃すことはできない。それは個別の地方を超えてトルキスタンという「祖国」を認識するうえでも重要な役割を果たすからである。旅行記の研究についてはこれからの本格的な研究が期待されているが、ワークショップでは協同研究者の Karimov 教授がその構想を報告された。日本でもこの分野の開拓が期待されている。

なお、本ワークショップに付随して、2025 年 4 月 18 日には研究メンバー一同が東京外国語大学を訪問し、中央アジアに関心を持つ学部生や大学院生を対象とする講演とペーパーセッションに関する短編映画の上映を行った。(完)

発表論文

- 1) Abdirashidov, Zaynabidin. 2025a. The Formation and Development of Ismail Gasprinski's Political Views. *Gazi Akademik Bakış*. 19 (37). 387-411.
- 2) Abdirashidov, Zaynabidin. 2025b. Türkistan Ceditçiliğinin Önderi Mahmuthoca Behbûdî. in Veli Savaş Yelok ve Zaynabidin Abdirashidov (ed.) *Mahmuthoca Behbûdî. Seçilmiş Eserler*. Ankara: TÜRKSOY, 30-85.
- 3) Abdirashidov, Zaynabidin. 2025c. Jadidchilik harakatining shakllanishida Ismoil Gasprialining “Rusyada Musulmonlar” asarining oʻrni. in Nodira Egamkulova (ed.) *Milliy adabiyot shakllanishida jadidchilikning oʻrni*. Toshkent: Muharrir nashriyoti. 86-99.
- 4) Abdirashidov, Zaynabidin. 2025d. Nikolay Ostroumov'un Sart Dili Etimolojisi: Dilbilimsel ve Etnografik Bir Analiz. in *Global integratsiya sharoitida turkiy tillar taraqqiyoti: muammo va vazifalar 2-Xalqaro Ilmiy-Amaliy Konferensiya Materiallari*. Toshkent: Bookmany print, 38-46.
- 5) Karimov 2025a. Баҳодир Каримов. Беҳбудий ва бошқалар . Тошкент. “Ўзбекистон” нашриёти. 256 pp.
- 6) Karimov 2025b. Баҳодир Каримов. Токиода беҳбудийхонлик // Жадид газетаси. 18 (70). 2025.5.2.
- 7) Karimov 2025c. Баҳодир Каримов. Беҳбудий – фикр ислохотчиси // Филология масалалари. 3. 57-63.
- 8) Komatsu 2025. Ҳисао Коматсу. Туркистон тарихини ёзиш арзуси // Жадид газетаси. 34 (86). 2025.8.22.
- 9) Yelok, Veli Savaş. 2025a. Özbek Cedit Hareketi ve Cedit Matbuatı Üzerine: Tespit ve Değerlendirmeler. *Gazi Akademik Bakış*. 18 (36). 51-75.
- 10) Yelok, Veli Savaş. 2025b. The Concept of Homeland in Uzbek Jadid Poetry. *Üçüncü Sektör Sosyal Ekonomi Dergisi / Third Sector Social Economic Review*. 60 (3). 2398-2417.
- 11) Yelok, Veli Savaş. 2025c. Modern Özbek Hikâyesinin İlk Metni yahut “Acayip Bir Tesadüf.” *Akademik Dil ve Edebiyat Dergisi / Journal of Academic Language and Literature*. 9-2. 1352-1365.
- 12) Yelok, Abdirashidov. 2025a. Veli Savaş Yelok ve Zaynabidin Abdirashidov (ed.) *Mahmuthoca Behbûdî. Seçilmiş Eserler*. Ankara: TÜRKSOY. 301 pp.
- 13) Yelok, Abdirashidov. 2025b. Veli Savaş Yelok, Zaynabidin Abdirashidov, Tuğba Sarıkaya Aksoy ve Sümeysa Harmanda (ed.) *Uluslararası Çağdaş Türk Lehçeleri ve Edebiyatlarının Güncel Meseleleri Bilgi Şöleni – 2: Mahmuthoca Behbûdî ve Türkistan Ceditçiliği Bildiri Kitabı*. Ankara: TÜRKSOY. 629 pp.
- 14) 小松久男 2024. 「新聞から読む中央アジアの変革—ムナツヴァル・カリの軌跡をたどって」『アジア太平洋研究』 49. 1-21.
- 15) 小松久男 2025a. (批評と紹介)「ザイナビディン・アブディラシドフ著『イスタンブルにおけるフィラト—自由の探求』」『東洋学報』 101 – 4. 01-08.

- 16) 小松久男 2025b. 「ジャデイド研究ワークショップの報告」『日本中央アジア学会報』 21. 65-69.

引用文献

- 1) Abdirashidov, Zaynabidin. 2014. Study of Jadidism in Independent Uzbekistan. *Asian Research Trends*. 9. 47-73.
- 2) Xo‘jao‘li, Temur (ed.) 2024. “*Jadidlar: Milliy o‘zlik, istiqlol va davlatchilik g‘oyalari*” xalqaro konferensiya materiallari 2023-yil 11-12-dekabr, Toshkent: Yosh kuch. 480 pp.